

背水の陣で臨み続けた昨年までの5年間が、少々の異変はあってもギリギリの処で適当な温度、乾度、湿度を頂けた、有難い日々であった事がしみじみ想わせられるこの一年の営農でございました。

8/18の集中豪雨に伴う作物の水没と土壌流亡による土木被害に引き続いて8/23、8/30と土木被害現場を更に浸食する雨また雨の連続、日々テレビ等で報道される九州始め全国の皆様の大変な御苦労の一端を垣間見たような気が致します。

瞬時の自然界の猛威の前には、私達の非力さはなすすべもない現実に直面した時、只管に謙虚に、純粹に「大自然=神」と向き合い、勤め尽くし切っていかなければ、不思議な力に守られ続ける豊かな日々はありえないのだろうという想いを一層強めさせられた春耕から収穫に至る今年でございます。お蔭様で九月といわれる今月に入り、全く天候は順調で、土木被害の修復と来年度からお借りする約7年の休耕不作3町歩の開墾も総計300万円程の費用もかかりましたが無事終了し、遅ればせながら、一斉に収穫作業に専念できるようになりました。

日の出から、朝食までは朝露により、サヤがはじけないのを活用して、豆の刈り取り、日中はいも、人参の収穫と、豆のシマ立て乾燥、夜は選別とフル回転でございます。

最高に苦しい時こそ、夜明けの前兆であると言われておりますように、直面する厳しい現実こそ、次の進展へのヒントありという想いで、天意に帰依し続けたいと心がけております。

「北方圏に於ける全面積無肥料による大規模自然農法の可能性の追求」こそ天の真命と自らに課した信念と、妻の支えなくしては、今日まであり続ける事ができなかったと思います。

春の低温による発芽不良には約60kgの銀手亡、雪手亡の2粒ずつでの差し豆による対応、夏の干ばつには天を仰ぎ、秋の水没には地にひれふして、結果じゃがいも、人参は平年収穫量の3割しか許されず数百万の減収かと思われます。

豆類の順調な販路確保により、豆類の作付けと小麦とクローバーの共生による土作りを輪作の要にしながらじゃがいも、人参は当年最も地力回復地に作付けできる体制確立しかかっておりましたが春先、伊藤さんへの全面借地返還により一抹の不安あった可能性が、現実になったようです。

しかし将来に向けて市民権頂き、より普遍的拡大普及許されていくにはより確実に適切な対応迫られております。自家採種約10年のじゃがいも「花しべつ」、耐病性抜群な一面、一株当たり大変球数多く、小さい程収穫時、茎離れしにくい可能性残しておりましたが、昨年までは比較的肥沃度高い土地だったため、大粒の個数多く、小さめなのは厳選して種子にする対応で、間に合ってきました。

しかし今年度地力回復今一のところ 早ばつの追い討ち、一株当たりの球数多い事、養分分散まねき、大量の小粒ばかりの結果となった次第です。小さいが故に茎離れせず、ハーベスターから一株ごと大地へ放り出された約4町歩のじゃがいもを運転席からおりてゆっくりとトラクターを自走させ、茎から外して、次のうねに乗せ続ける、積んでは崩れつづける全くサイの河原の修行でございます。しかし冒頭申し上げました通り、一方で確実に、日の出の現実も見えており

ます。国の農事試験場で、農薬いらず奇蹟の品種として発見、改良されてきた北育シリーズの7号が花しべつで、今8号がより球太りして普及性のある品種として、農家配布の段階になりつつあるとの事で、先ず最小限の種子確保して、再び自家採種のチャレンジ開始です。

人参も水没して今年度の自家採種フルーティーの母球なくなりましたが、幸い今年度の選抜種子量が2年分ありましたので、一年の欠種は問題ありません。

土木被害につきましては、市の公道の側溝に集まる全ての水をV字の地形上、私の圃場の地下に管を通して沢に流す仕組みになっておいたものが、集中豪雨でコンクリートマスが流木でふさがり、あふれ出た雨水は土手を決壊し、むき出た管も破壊してしまいました。

250万円の費用は全面市が負担し回復してくれました為、私の出費は他の部分の決壊修復と開墾費50万円ですみました。

管が老朽化して(約20年)、先々自然破裂したら、いくら公共の管とはいえ、私の圃場内の事ですので、自己負担なったかもしれず、結果的にケガの光明でした。

畑が隣接する関係上協力し合ってきた小川さん、そして友人の松浦さんと本州の私の知り合いの方が、昨年、今年と結婚なされ、御二人の同級生の近藤さんが事情あって、7年間不耕地であった、荒れた水田を誰にも貸さないとおっしゃっていたのが、水害の直前小川さんが一肌脱いで頼んでくれた結果、自然農法の秋場さんになら、貸して上げるという事になりまして、土木修復の為の建設重機を一気にあぜこわし、排水側溝堀りにお願いして、私も2m近い草々をクローラートラクターでサブソイラー入れ、水の浸透良くし、2度のロータリー耕で腐植化への鋤き込み成功し、来年度から約3町歩の耕作の運びとなりました。

小川さんも平成20年から私の主力の第一拠点農場に隣接する畑4町歩、無肥料無農薬で活用して下さいと申し入れも頂き、約30町歩体制で思い切った休閑緑肥も導入し、無投入による北方圏での大型農業の可能性を追求していける見通しも立ちました。豆類の販売におきましても、一昨年産の銀手亡古豆は5年前の流通ルート開拓時、御使い頂き、今日への原動力となり、今回も100袋単位で、浦和のはら山さんが工夫して御使い頂き、又昨年産の自然農法35年の畑の自家採種35年の光黒大豆は越前福井のマルカワみそさんが数少なくなった杉樽職人さん作の百年持つだろうという3樽の仕込み用にピッタリの価値ある原料として、会員さんを募集して白羽の矢をたてて下さり、数十袋使って下さるのを含めて100袋単位でのほぼ完売の見通しが立ち、いも、人参の減収をカバーできそうです。

様々な面で、明暗、陰陽両極端に結果がでて岐路に立たされた年ではありましたが、女房との意気を合わせながら、日々真命通りあらせて頂こうというモチベーションを維持していきたいと思っております。

尚、この9/21本州から小川さんの友達の松浦さんに嫁がれてきた奥さんが、ホームページ作りの達人であられて、パソコン音痴の私が全面的にサン・スマイルさんをお願いしてまいりましたが、機が熟しましたら、第一拠点自然農法秋場農園として発信の一部を担って頂きながら、自然食品店J-NAOS通信と協調に健康、環境面でどうしようもないカベに覆われ、つぶされようとしている世の中の改過遷善の一翼として寄与できるなら幸いです。

今後とも変わらぬ御理解と御支援を衷心よりよろしくお願い申し上げます。